



生育中盤の管理のポイント！

適期の中耕培土で安定多収

◆中耕培土の効果

- ① 排水性の改善や、土中に空気が入りやすくなり根粒の活動が活発になります。このため、1回目は遅くならないことが重要です。
- ② 土がかかった部分から、新しい根(不定根)が発生します。これにより、耐倒伏性が向上します。
- ③ 雑草の耕種防除。

◆培土の時期と程度

1回目：第2～3本葉が展開する時期

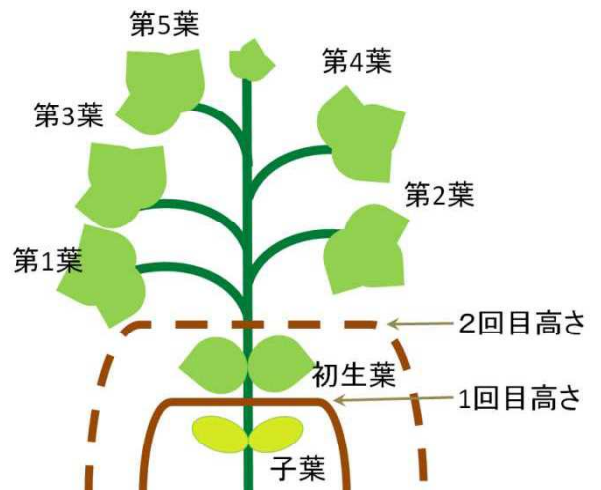
⇒ 子葉が土中に埋まるくらいの深さ

2回目：第5本葉が展開する時期
(1回目から7～10日後)

⇒ 初生葉が土中に埋まるくらいの深さ

注意) 培土は、開花期までにすませましょう。
遅すぎると根を傷め生育を抑制します。

★中耕培土深さのイメージ

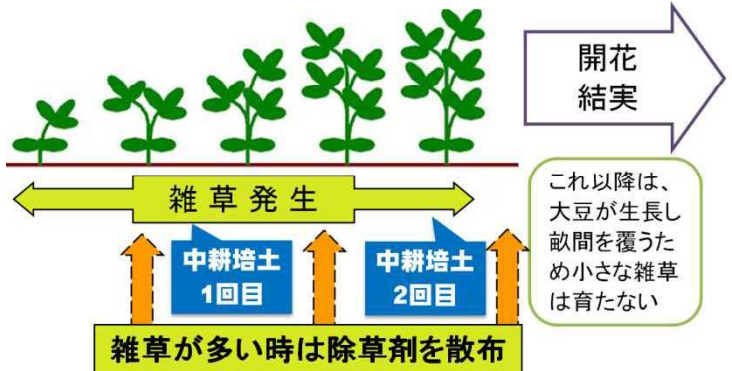


雑草対策で安定多収

大豆の葉が畝間を覆うまでの間(播種後25～35日間)雑草を押さえられるかが生育を左右します。

発生が早い場合や、量が多く中耕培土を行っても十分に抑えられない場合は除草剤を散布しましょう。

★大豆の生育と雑草対策の時期



★ 莖葉処理で使用できる除草剤

対象雑草	薬剤名	使用時期	使用量/水量(/10a)	使用回数	備考
イネ科雑草専用	ナブ乳剤	イネ科雑草3～5葉期 (収穫30日前まで)	150～200ml /100 ～150L	1回	枯殺まで7～10日 バサグランとの混用不可 (効果低下)
		イネ科雑草6～8葉期 (収穫30日前まで)	200ml /100L		
	ポルトフロアブル	イネ科雑草3～10葉期 (収穫30日前まで)	200～300ml /100L	1回	枯殺まで約1週間
広葉雑草専用	大豆バサグラン液剤	雑草生育初期～6葉期 ※大豆の2葉期～開花前 (収穫45日前まで)	100～150ml /100L	1回	重複散布や高温時は 薬害が出るので注意